



褥瘡について

外科
しょうばやし さとし
庄林 智 医師

国保京丹波町病院和知診療所長

褥瘡^{じよくそう}とは、長時間同じ姿勢でいることで皮膚やその下の組織が圧迫され、血流が悪くなってできる傷のことです。「褥」は座ったり寝たりする時の敷物^{しとね}を意味し、この上で擦れてできる傷なので、一般には「床ずれ^{とこ}」と呼ばれ、寝たきりの方や車いすを使用する方に多くみられます。



褥瘡は特に仙骨部、かかとや太ももの外側などの骨が出ている部分に起こりやすく、原因は圧迫だけでなく、体のずれや摩擦、汗や尿による湿り、低栄養や加齢による皮膚の弱さなども関係します。そのため、高齢者では体調不良で数日間寝込んだだけでも褥瘡が発生することがあり、予防として定期的な体位変換、体圧分散マットレスの使用、皮膚の清潔保持、十分な栄養と水分の管理などが大切です。



治療では、まず圧迫を取り除き、傷の深さや感染の有無に合わせてケアを行います。近年の褥瘡治療では、「創傷湿潤環境^{そうしょうしつじゆん}」を保つことが重視されています。以前は傷を乾燥させる治療が一般的でしたが、近年は適度な湿りを保って治す「湿潤療法」が重視されています。創傷被覆材^{ひふくざい}を用いて傷を保護



したり、穴あきのラップで包んだオムツ素材を用いたりして^{しんしゅつえき}滲出液を調整しながら治癒を促します。また、壊死した組織がある場合は取り除き、感染が疑われる場合は洗浄や抗菌薬などを使用します。

褥瘡は一度できると治療に時間がかかるため、早期発見と予防が非常に大切であり、最近では医師や看護師だけでなく、栄養士、薬剤師、理学療法士などがチームを結成し、栄養、姿勢、排泄、生活環境まで多職種が連携してケアを行うことが求められています。

